

令和3年10月

東京都建設局

「土砂災害防止に関する絵画・作文」

令和3年度 受賞作品決定のお知らせ

東京都では、6月の土砂災害防止月間の一環として、小・中学生を対象に土砂災害防止に関する絵画・作文の募集を行いました。その結果、合計で231点の応募がありました。その中から選考を行い、絵画の部（小学生）5点、同（中学生）5点、作文の部（小学生）2点、同（中学生）2点の受賞作品を決定しましたのでお知らせします。

建設局長賞 絵画の部(小学生)



八王子市立横山第一小学校
5年 伊藤 娃子さん



あきる野市立五日市小学校
6年 石田 悠鷹さん

建設局長賞 絵画の部(中学生)



府中市立府中第六中学校
1年 国島 大雅さん



八王子市立柵田中学校
2年 馬場 真結花さん

河川部長賞 絵画の部(小学生)



八王子市立
横山第一小学校
5年 有泉 貴史さん



あきる野市立
五日市小学校
6年 谷 咲太郎さん

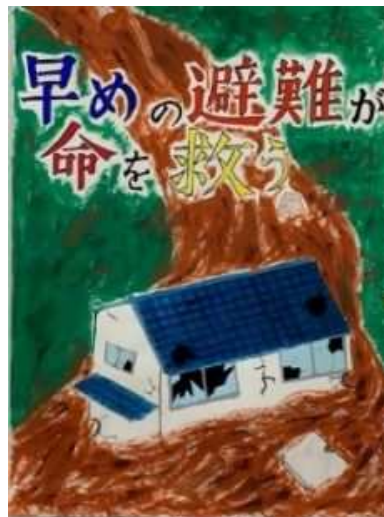


あきる野市立
五日市小学校
6年 中村 悠慎さん

河川部長賞 絵画の部(中学生)



私立
八王子実践中学校
1年 門河 優菜さん



葛飾区立
桜道中学校
1年 杉浦 咲樹さん



八王子市立
柵田中学校
3年 門河 裕輝さん

どしゃさいがいについてかんがえた

目黒区立不動小学校 一年

豊岡 一颯

どしゃさいがいのきじを、しんぶん でよんだ。ひがいにあったのは、ぼくより一さいとしようえのおとこのこだった。かわいそうだとおもったし、あぶないとおもった。おかあさんは、

「むかしよりも、おおあめがふえたきがする。」といった。

もっとしりたくなって、ほんをよんだ。どしゃさいがいは、おおあめがげんいでやまやがけがくずれておこるらしい。

きしょうかんそくシステム「アメダス」によると、さいがいのきけんがあるおおあめのかいすうが、ふえているそうだ。

いちじかんこうすいりょう五〇ミリメートルいじょうのねんかんはっせいかいすうは、おかあさんがうまれた一九八〇ねんから、ぼくがうまれた二〇一〇ねんまでの三〇ねんかんで、やく一、五ばいにふえている。

さらに、げんざいあめがおおいばしよではさらにおおく、すくないばしよではさらにすくなくなると、よそつされているそうだ。

これはちきゅうぜんたいのもんだいでもあるとおもう。きこうへんどうがこのまますすめば、どしゃさいがいもふえるだろう。

ぼくにもできることはなんだろうか。ふだんから、「ぼうさいノート」や「とつきよう・マイタイムライン」をよんで、じゅんびしておくことがたいせつだとおもう。また、きこうへんどうをとめることもたいせつだとおもう。

でんきをこまめにけしたり、ものをだいじにつかってなるべくゴミをださないようするなど、いまできることからはじめたい。

土砂災害に目を向ける

文京区立第九中学校 三年

牧田 爽和

私が土砂災害の恐しさを意識しはじめたのは、一年ほど前からです。きっかけとなったのは二〇二〇年七月、熊本県を中心に九州地方・中部地方で発生した集中豪雨が起きたときのことです。熊本には、最大レベルの大雨特別警報が発表されました。特に南部では被害が大きく、球磨川が氾濫し、濁流により老人ホームは水没。広範囲が浸水し、土砂崩れによる家屋倒壊もありました。死者は熊本県内だけで六十五名。土砂崩れから逃れられずに命を落とした人も多くいました。私が住んでいた家は熊本県北部にあり、特に私の家は周りより一、二メートル高い高台にありました。丁度家の横に、地下に続く側溝があったのもあり、私の家は大丈夫だろうとどこか安心してしまっていました。雨が強くなってきたのを感じ、窓から外を見ると、三十メートルほど先の道路は水であふれ返っていました。その水は、私の家の横を通って流れていくはずが、水の量が多すぎたせいか、流れるスピードは速いの、家の横でたまりつづけ、水位も上がる一方でした。大きな音を立てながら凄い勢いで水が押しよせていました。自然の怖さを肌で感じ、その時初めて命の危機を感じました。私の町は住宅地が広がっていたところだったこともあってか、幸いなことに特に大きな被害はありませんでした。ですが、次の日学校に行くと、先生が何人か休んでいました。熊本南部にある実家が被災し、その片付けを手伝いに行っていたそうです。ニュースでも、土砂が流れこんだ家を片付ける人たちの姿を見ました。私は豪雨にあうまですつと、心のどこかで、災害は、自分には関係のないことだと線引きしてしまっていました。ですが、それらを見聞きして、ただ「ニュースで見たこと」ではなく、「自分自身にも起こりうること」だと捉えるようになりました。

自然災害において、被害を受けやすい地とあまり受けにくい地があると思います。命の事だけを見て考えれば、もちろん被害の受

けにくい地に住んだ方がいいでしょう。ですが、被災した地元の人を見ていると、その地が好きで、離れるということも、そう簡単にできるものではないのだらうなと思いました。

だからこそ、自分自身で出来る対策等が重要になります。私は三つ、大切だと思うことがあります。

一つ目は「正しく怖がる」ということです。自分の身に危険がせまったさいには、やはり誰もがパニックになるのではないでしょう。危機感をもつという点において、災害を怖がる事は良いと思いますが、誤った情報をうのみにしてしまえば、悪影響があるかもしれません。ですから私は、まず「知る」ということから始めていくべきだと思います。ささいな事でも構いません。どのような行動が安全か、危険か。少しでも災害について目を向けることが大切なのだと思います。

二つ目は「もしものときを考える」です。災害がいつどこで起きるかは誰にも分かりません。家族と離れた場で、突然くるかもしれないません。そう考えると、“もしも”を想定して日頃から話題に出しておく必要があると思います。家族内等で決まり事をつくっておくだけでも、不安の軽減につながるのではないのでしょうか。三つ目は「自分の事として考える」です。昔の私のように、自分には影響がないことだらうと思っている人も多いのではないかと思います。たとえ、自分が直接被害にあわなかったとしても誰かが被災して困っている時、自分に何が出来るかを考えることが、その誰かの助けになるかもしれません。

一人一人が自然災害に意識を向け、出来る限り被害を最小限に抑えるために、自分を守るために、備える。結局はこれに尽きるのだと思います。同じ事を何度も繰り返し起こさないよう、国民全員で今一度見つめ直すべきです。私たちの生活から、災害を無くすことはできません。一生付き合っていかななくてはなりません。そんな災害に対して、「私には関係ない。」などというのは無責任だと私は思います。自分で出来ることが、ささいな事だとしても、必ず意味のあるものになると思います。だから私は、土砂災害に対して目を向ける人が一人でも増えてほしいと、心から思います。

さぼうえんていって

北区立岩淵小学校 三年

鬼頭 花鹿

土石流のえいぞうをインターネットで見ました。

いっしゅんで家をバラバラにするから土石流はとてもこわくて悲しくなりました。

土石流から家をまもるものが「さぼうえんてい」だと知りました。

「さぼうえんてい」が石や木を止めているのを見てすごいと感動しました。

コンクリートで作られているから大きな石や大きな木が流れてきても止めることができるから、こわれないなと思いました。

私がインターネットで見た「さぼうえんてい」の大きさは、高さが三十メートル、はばは七十八メートルでとても大きくダムみたいでした。

さいきんは「とうかがたさぼうえんてい」というはしらが組み合わさったものができています。

これは今までのものよりも小さな石や水は流れやすくなっているが、土石流が起きた時は大きな石や木を止めることができる「さぼうえんてい」になっています。

私は「さぼうえんてい」という、まもるものを発明した人は、たくさんの人や家をまもってくれているので、すごい人だなと思いました。

来年の夏休みには「さぼうえんてい」を見に行きたいです。たくさんの人に「さぼうえんてい」の大切さを知ってもらい多くの「さぼうえんてい」ができることによって、日本中で土石流のさいがなくなることを願っています。

知る事の大切さ

大島町立第三中学校 一年

下島 弦太

平成二十五年、十月十六日。私が住む伊豆大島には、台風二十六号が接近、大島町観測史上一位を取る程の強い雨が降り注いでいた。家中に響き渡る雨の音、強風で軋む木々の音。まだ幼かった私には、台風という未知の現象に対して、今以上に恐怖を感じていただろう。

この巨大で強大な台風二十六号はこの日、「土砂災害」という、人をも、街をも飲み込んでしまう異常な災害を起こしていった。死者三十六名、行方不明者三名、住宅五十戸全壊。不意に起こった土砂崩れから逃げられた者は、いなかったであろう。このような災害は、たびたび日本を恐怖に陥れている。

今一番に思い浮かべたのは、静岡県熱海市で起こった、「伊豆山土砂災害」である。この災害での被害は、死者二十二名、行方不明者五名、建物の損壊は百三十一棟にも及んだ。この土砂災害が起こる時には、ここ伊豆大島の時と同じく、多量の雨が降っていたという。また、現場はハザードマップで、土砂災害が起こるリスクが高いエリアに指定されていた。このようなところでも、伊豆大島の土砂災害との共通点がある。私は、土砂災害が起こる際には、何かの「条件」があるのではないかと考えた。

まずは土地だ。土砂災害は、起伏が大きい土地で起こる。日本は、国土の七割を山地、丘陵地が占めていて、地殻変動が活発な所にあり、火山も多い国である。そのため、土砂災害が起きやすくなっている。また、平野が少ない為、台地や丘陵地まで住宅が並び、土砂災害の影響を受けやすくなっているのだ。更に、火山が、崩れやすい火山灰や火砕流などの堆積物を大量に降らせているため、より土砂災害が起こりやすい環境を作り出している。

次に、雨の影響だ。日本は、台風などの集中豪雨が頻繁に起こっている。土砂災害の発生は、土が含む水の作用が関わる場合が多い。その理由は、土に浸透した水が、土に負荷をかけ、すべりやすい状況を作り出しているからなのだ。火山灰や火砕流も相まって、更に土砂災害を誘発する恐れがある。

伊豆大島の土砂災害と、熱海での土砂災害は、主にこの二つの条件から起こっていると考えられる。山と雨。他にも要因はあると思うが、主な要因はこの二つに違いない。この二つの条件以外に、地震が関わって土砂災害を起こしている事例も多くある。地震とは地殻の内部で岩石がずれることによって生じる、地面の振動のことだ。地面が振動することで、山の土が崩れてくる。地震が原因の土砂災害で有名なものは、「平成七年兵庫県南部地震」などが挙げられるだろう。

大島町では土砂災害の後、復興が進んだ。私の父もボランティアに行き、土を取り除いていたという。

町では、土砂災害の対策が以前よりも行われている。構造物により土砂などの力を制御して、災害の防止、軽減をするハード対策では、被害が起きた場所周辺に、ロックボルト工や鉄線柵工などの「斜面对策」をしたり、中流導流堤、流路堤などを設置し、土砂災害を発生させない、被害を抑えるなどの対策をしている。また、土砂などの力が発生しても人的な被害の発生を防止、軽減するソフト対策により、ハザードマップの改善などが行われた。そして、学校は私達生徒に土砂災害防止に関する絵画・作文を書かせ（描かせ）て、土砂災害に対しての理解を深めさせてくれている。これも、ソフト対策の一貫なのだ。

今回、土砂災害のことについて調べてみて、土砂災害の被害を減らす為には、土砂災害やその対策について、一人一人が「知る」ということが大切ではないかと思った。起こる原因と過去の被害、起こさない為の対策を、「知る」とにより、土砂災害が起こる危険がある時でも、適切に行動が出来ると思う。